

徹底追求！ 次世代政策研究事業と

バス路線見直しと 夢まつりについて

村崎議員

(1)新規事業について

①次世代政策研究事業は市長が3つのテーマ（観光パラ園・白島の利活用・国際村）を設定しているが、他に研究すべきことがあるのではないかとまた、職員に自発的に研究テーマを決めさせるべきではないかと。

②公共交通体系整備事業（予算1,500万円）について、事業内容、期間、算定根拠、他市との比較、将来にわたるコストについて明確にして欲しい。バス路線は平成20年度に調査、平成21年度に実証実験ということ、抜本的な見直しは平成22年度からという認識でよいのか。

(2)天正少年夢まつりについて

平成19年度の夢まつりの事業目的は観光客を呼び込むことだったが、市外の観光客数は把握しているのか。観光客を呼ぶための「切り札」はなんだったのか。事業としては不完全で、この事業を続けるのなら東京・大阪の若手クリエイター、イベントプロデューサーをアドバイザーとして迎えてはどうか？



次世代政策研究事業で利活用が研究される白島

市長

(1)①これらの課題を2、3年続けた方がいいのではないかとこの思いもあるが、他にもテーマは考えられ、柔軟的に考えている。これらのテーマの他に職員の中からぜひ取り組みたいというものがあれば考慮したい。

企画部長

②事業内容は地域現況の把握や、住民ニーズ、利用実態の把握、バス路線運行のあり方の検討、全便の乗降調査そしてアンケート調査等である。他市の状況については、それぞれ状況が違うので、特に参考として積算していない。なお、20年度に調査を行う。そして21年度には、住民のニーズ等を含めながら、地区別にできるところがあれば、実証実験を行いたい。大幅な見直し等については、22

年度以降になると思っている。
商工観光部長 (2)市外の方については、きちんとした把握はしていないが、3割程度であったと考えている。

今回、歴史観光元年ということと、大村純忠と天正遺跡少年使節について市内外の方々に多く知ってもらうことが大きなテーマであった。

市長 全国レベルの若手クリエイター等と呼びかけていくことは、非常に有益であると思うので、今後は、可能性をとらえていきたい。

(その他の質問事項)

・全国学力調査について

新幹線とまちづくりについて

赤ちゃんポストと

「日本一赤ちゃんを大切に
まち」宣言について

川添議員

(1)新幹線について

新大村駅の位置は大村市の総合基本構想に沿って議論され、今の予定地が決定されたのか疑問である。

集中は栄え分散は衰退「新〇〇駅」といった都市は衰退する」と言う週刊東洋経済の記事を紹介する。新大阪・新神戸・新横浜、大都市でも厳しい現実である。大村市は小都市であり、未

来はコンパクトなまちづくりが求められている。未来に悔いを残さない為にも新幹線大村駅の位置は、市民の声を充分に聞き決定すべきである。本議員は、現在の大村駅に併設する方がベターと考えるが、市長の考えは、

(2)赤ちゃんについて

大村市内において「命を大切に
する会」の「円プリオ基金」活動により15年間で50人の赤ちゃんが生まれました。募金額も誕生数も日本一であります。「赤ちゃんポスト」への動き「日本一赤ちゃんを大切に
するまち」宣言について市長の見解を問う。

市長

(1)新大村駅の位置を現大村駅に移動して併設する場合、新大村駅位置と現大村駅位置が約25kmであり、新幹線ルートと現大村駅も700m離れていることから、ルート変更により再度環境影響評価が必要となってくる。また、中心市街地に近づくことから、建設費や用地費の再度の積算が必要となり、現在進められている鉄道・運輸機構による武雄温泉線早間の工事実施計画認可申請はストップする可能性がある。こうした状況から新幹線新駅の建設場所の変更は極めて困難であると認識している。現大村駅に併設をすることについては、現実的には極めて困難な状況であるが、市